

サロベツ再生通信 2013.8発行 第17号

上サロベツ自然再生協議会運営事務局

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
豊富町
環境省北海道地方環境事務所
北海道開発局稚内開発建設部
北海道宗谷総合振興局稚内建設管理部
林野庁北海道森林管理局

ホッキ祭りでのエコモ〜活動PR報告

平成25年7月28日（日）、豊富町自然公園にてホッキ祭りが開催され「エコモ〜☆サポーター」の一同も会場内のグリーンハウスを「エコモ〜ハウス」と名付け、自然再生事業やサロベツ・エコモ〜・プロジェクトのPR活動を行いました。

当日は、昨年度の112名を大きく上回る305名の方にご来場いただき、自然再生事業の展示パネル見て回るクイズラリーや、ぬり絵などの体験コーナーが大変好評でした。

また、会場内の体験コーナーに参加していただいた方にはバッジなどの記念品をお渡しし、こちらもお好評いただきました。

エコモ〜☆サポーターでは、来年もホッキまつりに展示を出展する予定です。今年お越しいただいた方はもちろん、今年来られなかった方もぜひ来年お越しの際は、展示会場にお立ち寄り下さい。



ぬり絵やカルタ、クイズも充実♪



カヤックに乗れる！体験コーナー



自然再生事業のパネル展示



自然再生に関するクイズラリーを開催



イメージキャラクター
「エコモ〜太くん」

エコモ〜☆サポーターとは？

サロベツ地域の自然と農業の共生を目指す「自然再生事業」の普及推進、また、地域の自然や歴史・文化を楽しむ地域づくり活動を目的として行われている「サロベツ・エコモ〜・プロジェクト」の運営、各活動のサポートを行っているのが「エコモ〜☆サポーター」です。メンバーは有志の地元住民、関係行政機関、NPO法人などの団体で構成されています。

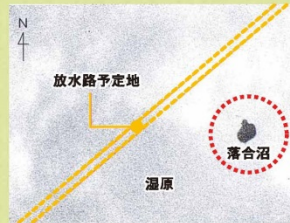
サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



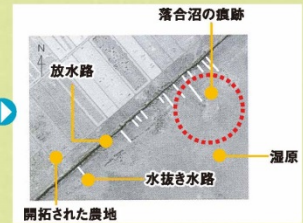
歴史

「サロベツ川放水路南側湿原周辺」の歴史

開拓が始まって以来、サロベツ川の氾濫は開発の大きな妨げとなっていました。このため、緊急度の高いサロベツ川上流部の氾濫防止のため、1961年(S36)からサロベツ川放水路掘削工事が行われました。



1947年当時のサロベツ川放水路周辺の航空写真。右側に落合沼の水面が見える。



2000年のサロベツ川放水路周辺の航空写真。落合沼は干上がっている。

問題

放水路に向かって地下水が流出し、高層湿原の乾燥化が進んでいます。

サロベツ川放水路周辺は、放水路の開削によって地下水が流出するようになり、湿原の地下水位の低下が生じました。かつてはミズゴケやツルコケモモ等が主に生育する高層湿原植生でしたが、乾燥化によってササやヌマガヤが生育しやすい植生に変化しました。

かつての植生
(高層湿原植生)

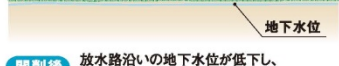


現在の植生



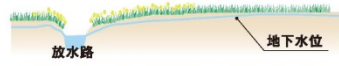
開削前

地下水位は高く安定し、高層湿原植生が分布していた



開削後

放水路沿いの地下水位が低下し、ヌマガヤ群落が分布



放水路の開削による放水路付近の地下水位の低下

目標

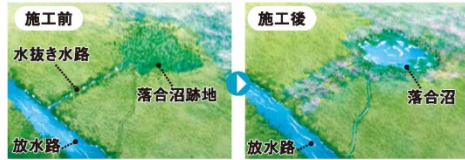
高層湿原植生の回復を図ります。

サロベツ川放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、背後の高層湿原植生の劣化を防ぐことを目的として、水抜き水路への堰の設置または泥炭による埋め戻しを行っています。

このことにより

低下していた地下水位を上昇させ、湿原植生の回復を図ります

水抜き水路堰き止めイメージ



取り組み

「サロベツ川放水路南側湿原周辺」では次の取り組みを行っています。

水抜き水路の堰き止め

落合沼では、水抜き水路への堰の設置または埋め戻しを行い、落合沼跡の窪地及び水路に湛水面を形成させ、周囲の地下水位の低下を抑制しています。また、落合沼以外の水抜き水路も堰き止めを行います。

放水路への地下水の流出を防ぐことによって、周辺の高層湿原植生を再生します。

落合沼の堰き止め



堰き止め前の落合沼



2000年撮影

現状の落合沼(湛水が維持されています)



2012年撮影